

# 県内経済動向調査結果(平成20年11月分)

平成21年1月9日

産業経済政策課

## 概 況

県内経済は、国内外の需要の減退により、電気機械や輸送機械などを中心とした製造業全体で急激に生産が落ち込んでおり、悪化している。

主な業種	状 況
製 造 業	<p><b>電気機械、輸送機械などを中心に、生産が急激に落ち込み、悪化している</b></p> <p>生産額、受注額はそれぞれ前年同月比15.2%減、同17.2%減となった。3か月先の業況見通しDIは 67.1から 72.9となった。</p>
建 設 業	<p><b>業界全体で厳しい状況が続いている</b></p> <p>受注額、完工高はそれぞれ前年同月比58.7%減、同10.6%増となった。3か月先の業況見通しDIは 68.8と変わらない。</p>
小 売 業	<p><b>家電品や飲食料品を中心に底堅い</b></p> <p>売上高は前年同月比で2.3%増、3か月先の業況見通しDIは 69.2から 61.5となった。</p>
サービス業	<p><b>運輸業で低調となっている</b></p> <p>売上高は前年同月比19.3%減、3か月先の業況見通しDIは 37.5から 50.0となった。</p>

# 製造業の動向

## 1 食料品

### 弱い動きが続く

生産額は前年同月比4.2%減。3か月先の業況見通しDIは 57.1と変わらない。

酒類では、お歳暮商戦において出荷数・単価ともに減少しているほか、飲食店での消費量も減少していることから、出荷が伸びる時期であるにもかかわらず県内外の需要低迷が続いている。

加工食品や菓子類では、季節的要因により鍋物商品などで需要増となっているが、消費者の低価格志向からほとんどの贈答品で単価の縮小が顕著であり、お歳暮商戦が低調となっている。総じて見ると、消費者の買い控えの影響を受け弱い動きが続いており、12月以降の年末商戦の厳しさが懸念される。

この間、ペットボトルなどの石油製品や段ボールといった資材で高止まりが続いている。

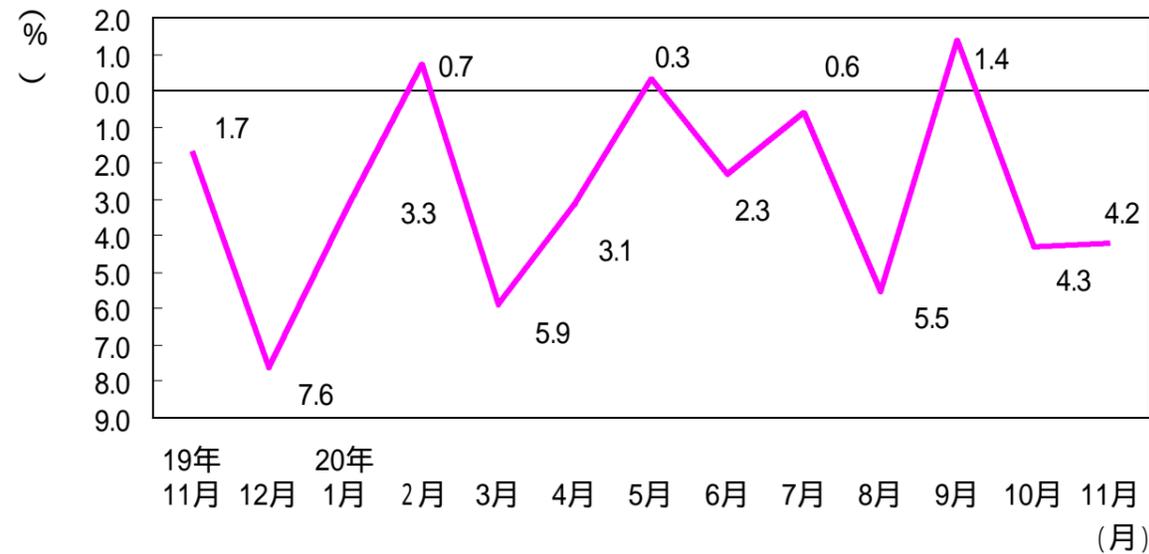
## 2 繊維・衣服

### 低調な生産活動が続く

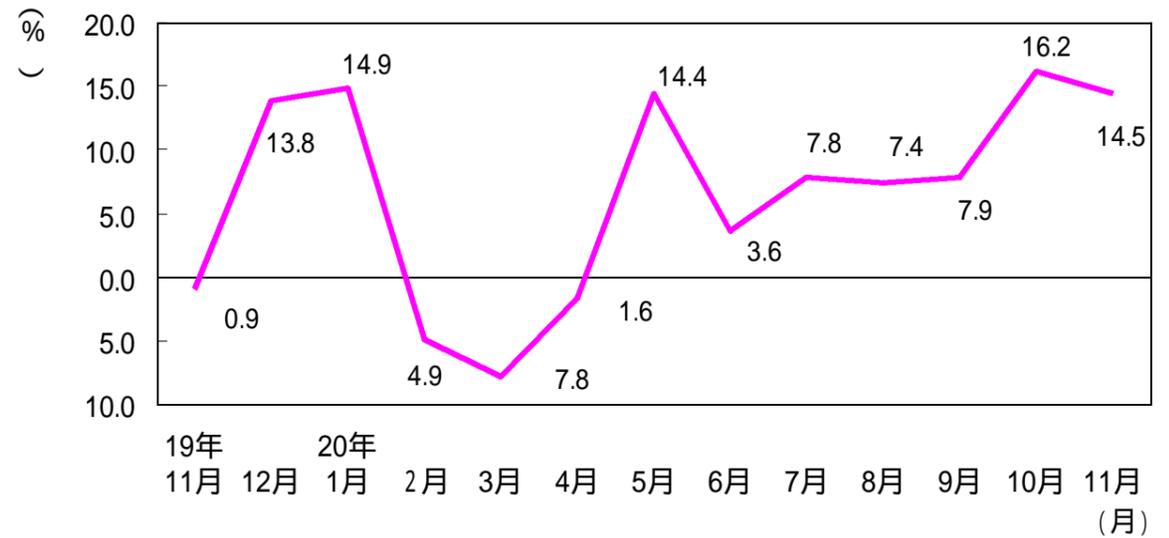
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比14.5%増、同9.2%減。3か月先の業況見通しDIは 42.9から 57.1となった。

生産額で前年同月を大幅に上回っているものの、昨年の伸び悩みの反動増によるものが大きく、業界全体としては低調な生産活動となっている。品目別に見ると、堅調に生産を続けていた学生用製品でやや落ち着きが見られる。婦人服などでは、例年に比べ暖かい日が多かったことから冬物製品が伸び悩んでいるほか、春物の受注も減少傾向となっている。各社とも小ロット多品種・短納期の受注が多いことや、消費者の節約志向が高まっていることから、業況は悪化している。

食料品生産額前年同月比



繊維・衣服生産額前年同月比



**3 木材・木製品**

15ヵ月連続マイナス、厳しい状況が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比12.1%減、同8.6%減。3か月先の業況見通しDIは 58.3から 50.0となった。

合板において、県外の学校改修工事などで受注を確保している企業もあるが、住宅市況は改善されておらず公共工事が少ないことから、総じて合板、集成材、一般製材ともに低調な生産活動が続いている。円高やロシアの関税引き上げにより、国産材と輸入材の競合が激しくなっていることや、重油、接着剤や梱包材などの資材が高止まりしていることも、企業の経営を苦しめている。

**4 鉄鋼・金属製品**

生産の落ち込みが続く

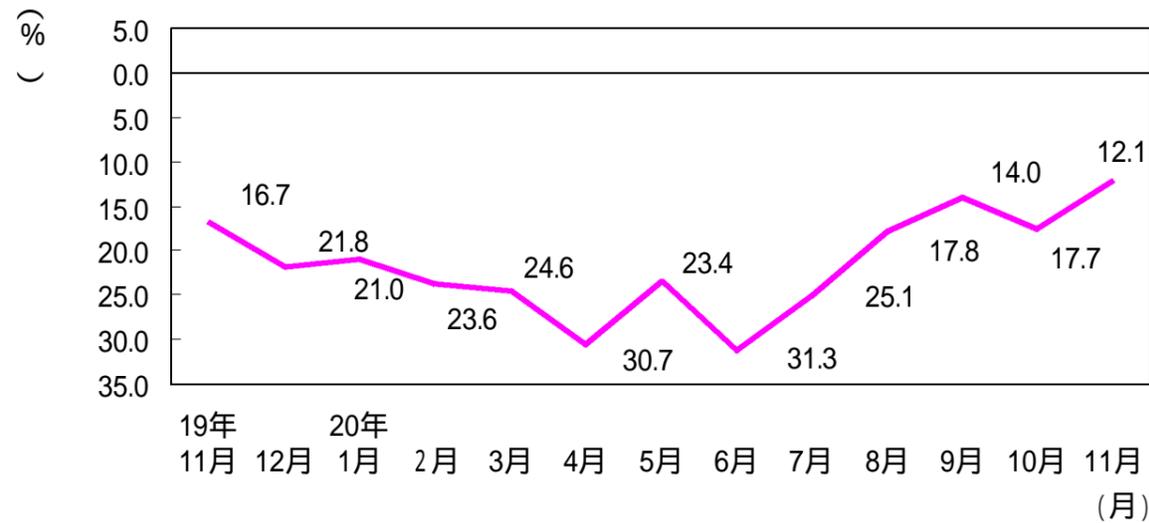
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比24.0%減、同14.1%減。3か月先の業況見通しDIは 72.7から 90.9となった。

建機関連で先月に引き続き堅調となっている企業が一部にあるが、電気機械や公共工事関連では、先月以上に生産が落ち込んでいる。

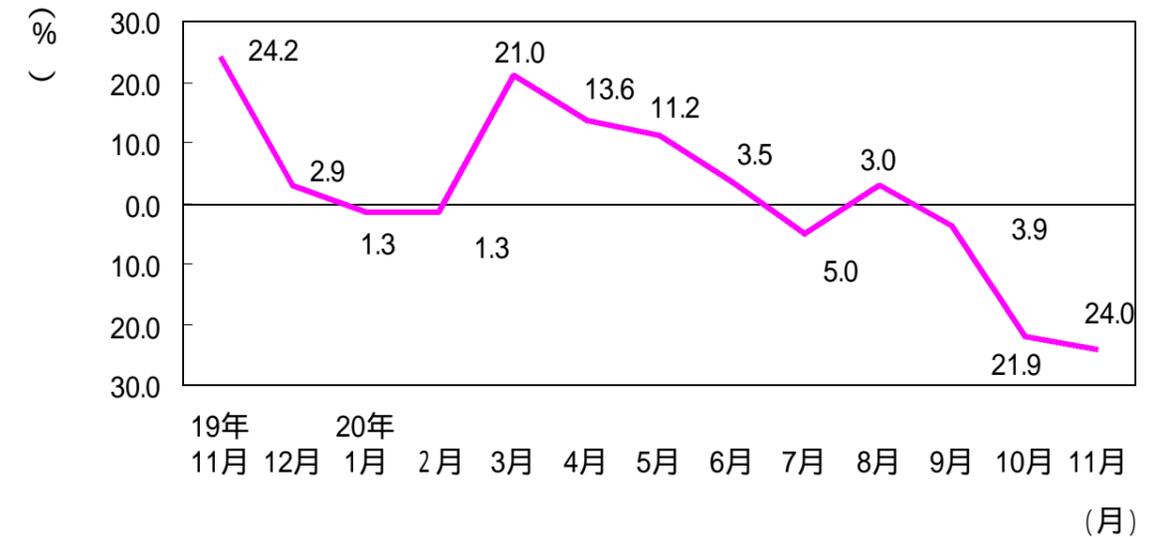
建具関係でも、市況の低迷に伴い生産が減少しているうえ、競争の激化により利幅が減少しており、厳しい状況となっている。

原材料の価格については、鉄スクラップなど下落しているものもあるが、鋼材などでは高止まりしており企業の収益を圧迫している。

木材・木製品生産額前年同月比



鉄鋼・金属生産額前年同月比



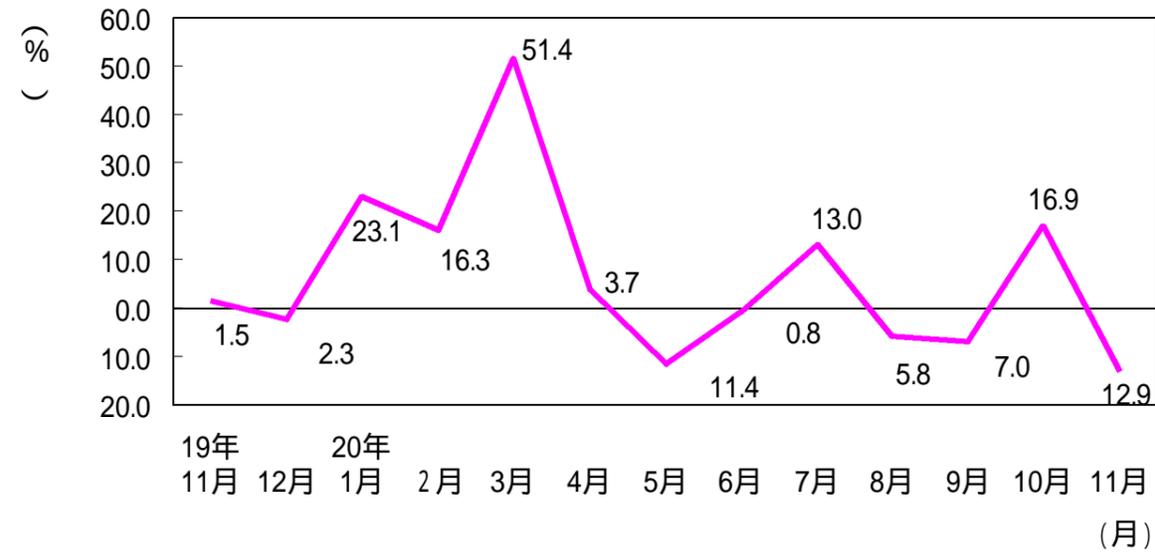
5 一般機械

品目ごとに業況分かれる

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比12.9%減、同28.6%減。3か月先の業況見通しDIは 71.4と変わらない。

一般産業機械・プラント設備関連では、堅調な生産活動を続け、数ヶ月先の受注残を抱えている企業も見受けられるが、公共工事関連や輸送機械関連では、国内景気の悪化の影響を受けて受注状況が急激に悪化しており、今後の生産活動のさらなる鈍化が懸念される。品目ごとに業況が分かっているが、総じて減少傾向が広がっている。

一般機械生産額前年同月比



6 電気機械

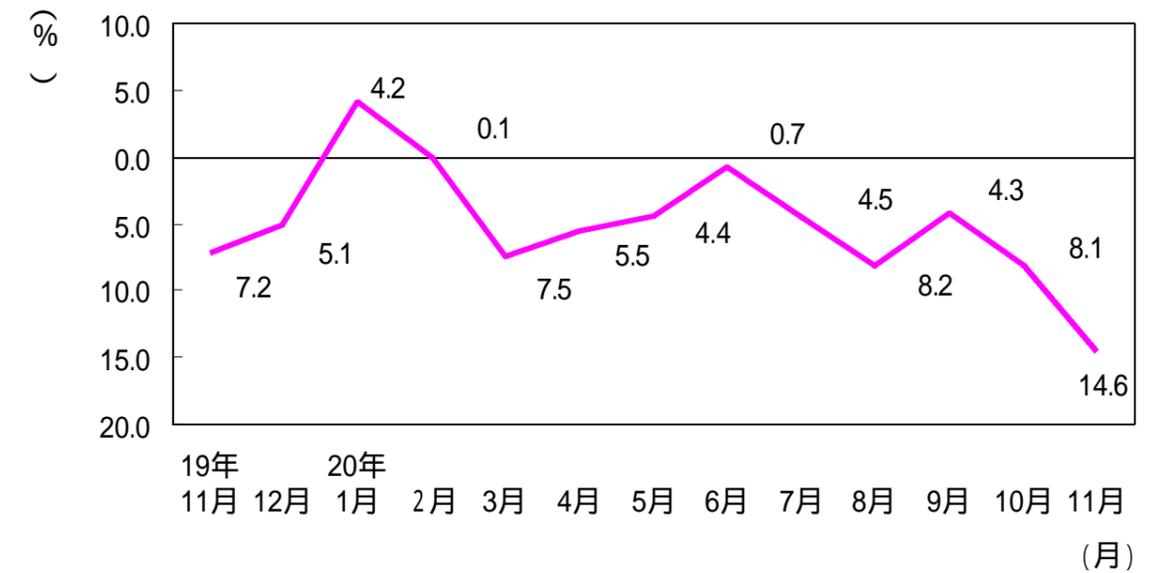
生産が大幅に落ち込む

生産額、受注額は、それぞれ前年同月比14.6%減、同14.6%減。3か月先の業況見通しDIは 75.0から 90.0となった。

基板や電子部品の一部、光ファイバーなどの通信部品で好調な生産活動が見受けられるものの、先月まで好調だったプリンター部品で落ち込み始めたほか、携帯電話部品やコンデンサー、半導体では、各社とも生産額の減少幅が拡大している。

総じて見ると、円高や国内外の需要減退を受けて生産・受注が急激に減少しており、厳しい状況となっている。

電気機械生産額前年同月比



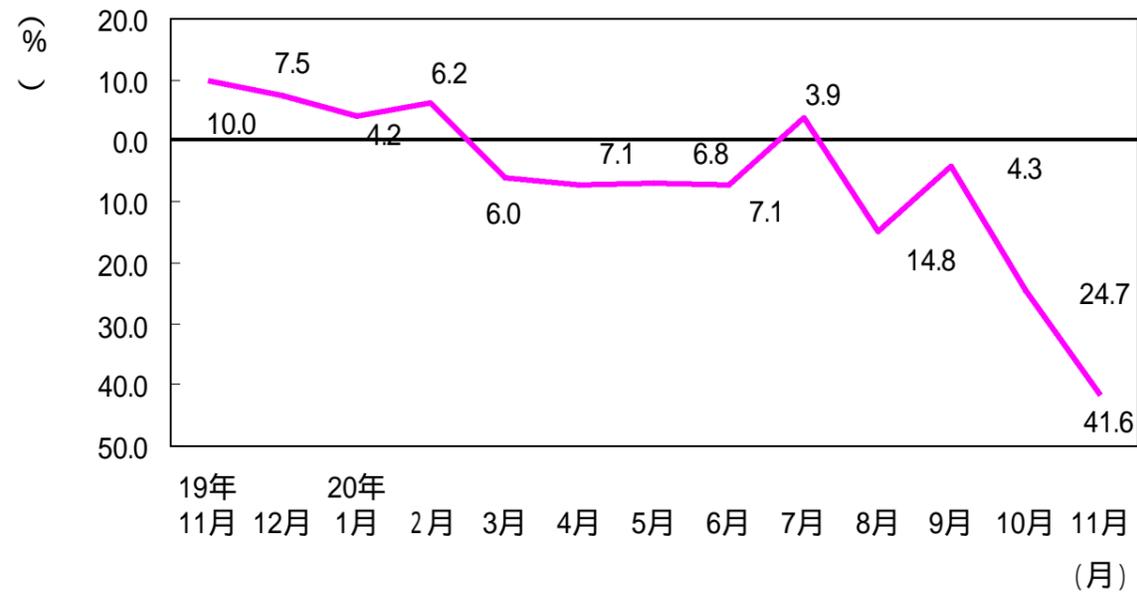
7 輸送機械

生産活動の低迷が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比41.6%減、同43.0%減。3か月先の業況見通しDIは 66.7から 50.0となった。

国内向け・海外向けともに大幅な需要減により、在庫は余剰しており、ほとんどの企業で減産が続いている。精密部品関連で受注の減少が見受けられるほか、内装品関連でも先月以上に大幅な減産となっている。総じて見ると、世界的な景気悪化や円高の影響を受け、先行きの不透明感は一層強まっており、生産活動の低迷が続いている。

輸送機械生産額前年同月比



8 精密機械

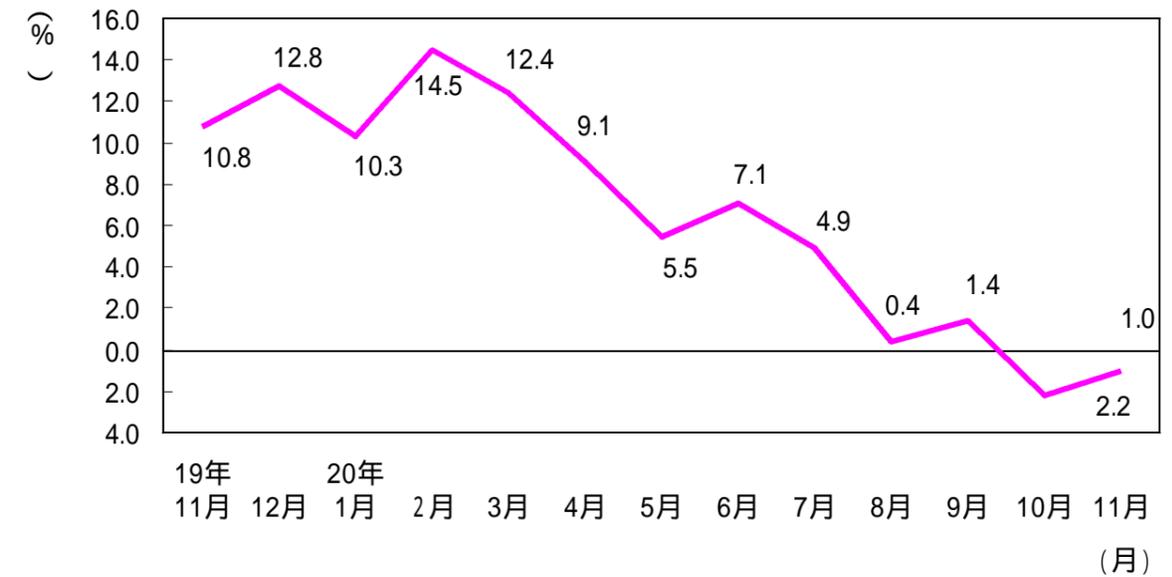
弱い動きとなっている

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比1.0%減、同12.6%減。3か月先の業況見通しDIは 87.5から 100となった。

医療機器関連では好調を維持しているが、デジタルカメラ関連や携帯電話部品、光ファイバー関連、計量関連などでは、景気悪化や円高の影響を受け、海外向け・国内向けともに需要が減少している。各社とも受注・生産ともに大幅に落ち込んでおり、全体としても好調な医療機器関連を除くと生産額前年同月比で大幅減となり、弱い動きとなっている。

一部企業では原材料の高止まりや、光熱費の値上げにより厳しい経営状況を強いられている。

精密機械生産額前年同月比



# 建設業の動向

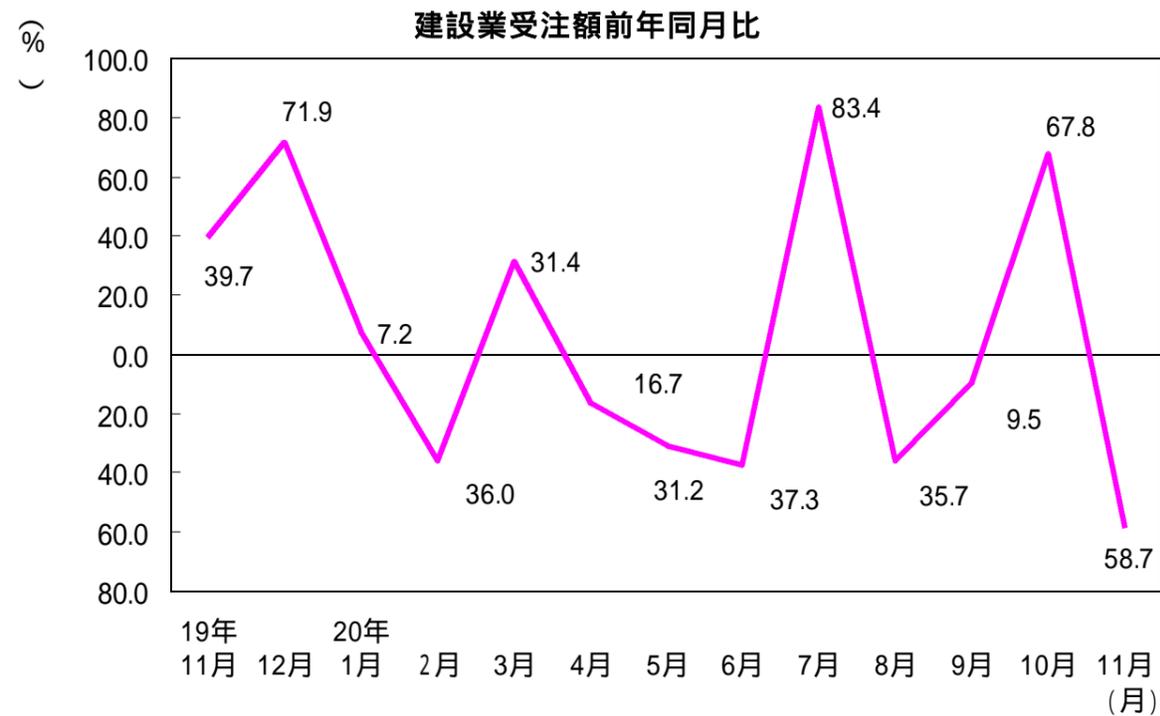
## 建設業

### 厳しい状況が続く

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比58.7%減、同10.6%増。3か月先の業況見通しDIは 68.8と変わらない。

民間工事では、宅地造成や一般住宅などの引き合いがいくつも見られるが、小口の案件がほとんどとなっている。公共工事でも、河川砂防工事や用水路修繕工事などの小型の受注が見受けられる。総じて見ると新規発注が減少しており、過当競争による低価格入札の常態化が続き、業界全体として厳しい状況が続いている。

この間、鉄骨やコンクリートといった資材で高止まりが続いており、厳しい経営を強いられている。



# 小売業の動向

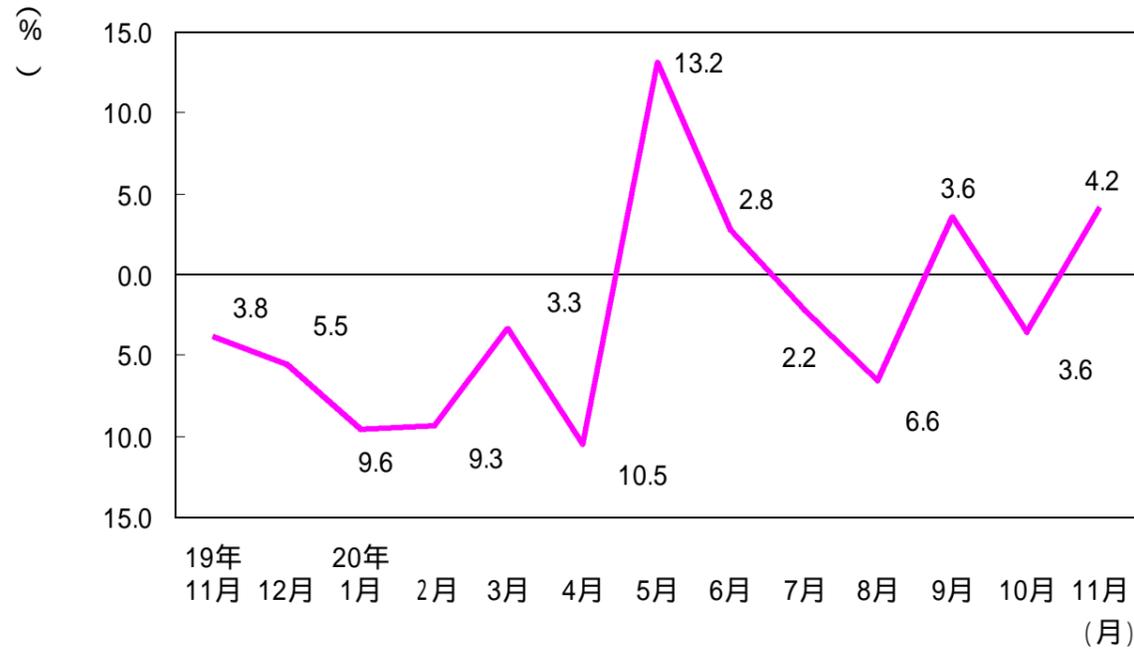
## 1 衣料品

### 暖かい日多く、低調な売上となっている

売上高は前年同月比4.2%増。3か月先の業況見通しDIは 83.3から 80.0となった。

一部のセールスの効果により売上高で前年同月比増となっているが、そういった要因を除くと全体で前年同月比6.3%減となり、低調な売上となっている。暖かい日が多かったことによる冬物製品の伸び悩みや、衣料品への消費者の節約志向が窺える。品目別に見ても、紳士服、婦人服で不調なほか、呉服でも前年を割り込んでいる。

衣料品売上高前年同月比



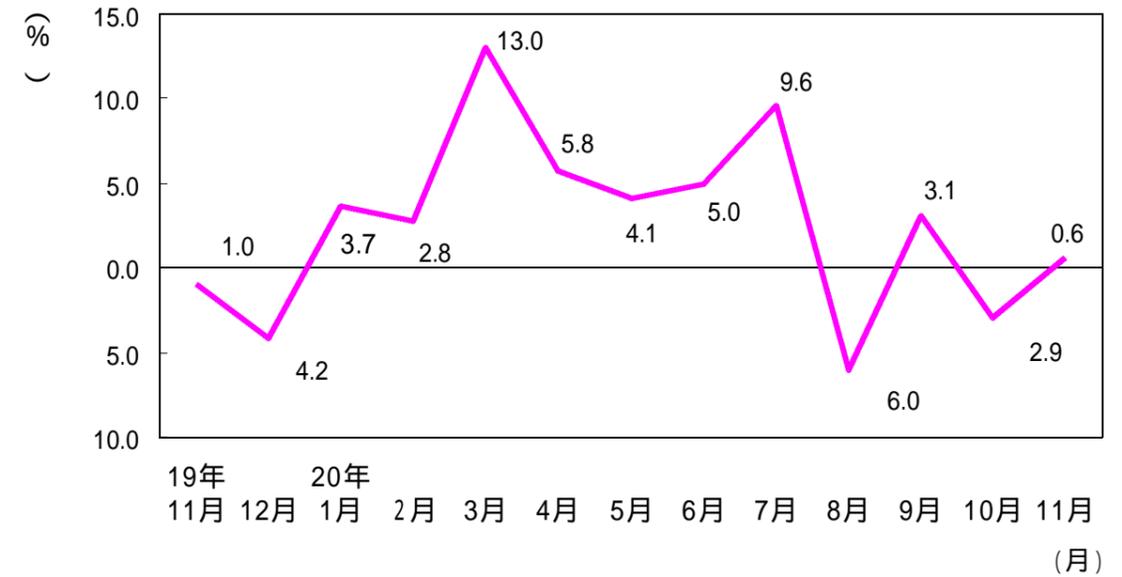
## 2 身回品

### 売上の落ち込みが続く

売上高は前年同月比0.6%増。3か月先の業況見通しDIは 100から 66.7となった。

ホームセンターにおいて、低価格に設定した木材や金物といった資材で売上が伸びているが、温暖な日が多かったことから暖房機器や除雪商品で伸び悩みが見られるほか、日用品の売上も低調となっている。総じて見ても、消費者の購買意欲は低下したままであり、売上の落ち込みが続いている。

身回品売上高前年同月比



### 3 飲食料品

#### 底堅い売上となっている

売上高は前年同月比10.1%増。3か月先の業況見通しDIは 66.7から 70.0となった。

お歳暮商戦が例年に比べ伸び悩んだほか、酒類でも低調に推移している。一方で、一部には好調に売上を伸ばしているスーパーやコンビニが見受けられ、総じて底堅い売上が続いている。

食料品の仕入れ価格が上昇していることや、低価格のPB商品が売れていることから、売上額を前年比増としていても企業の収益性は悪化している。

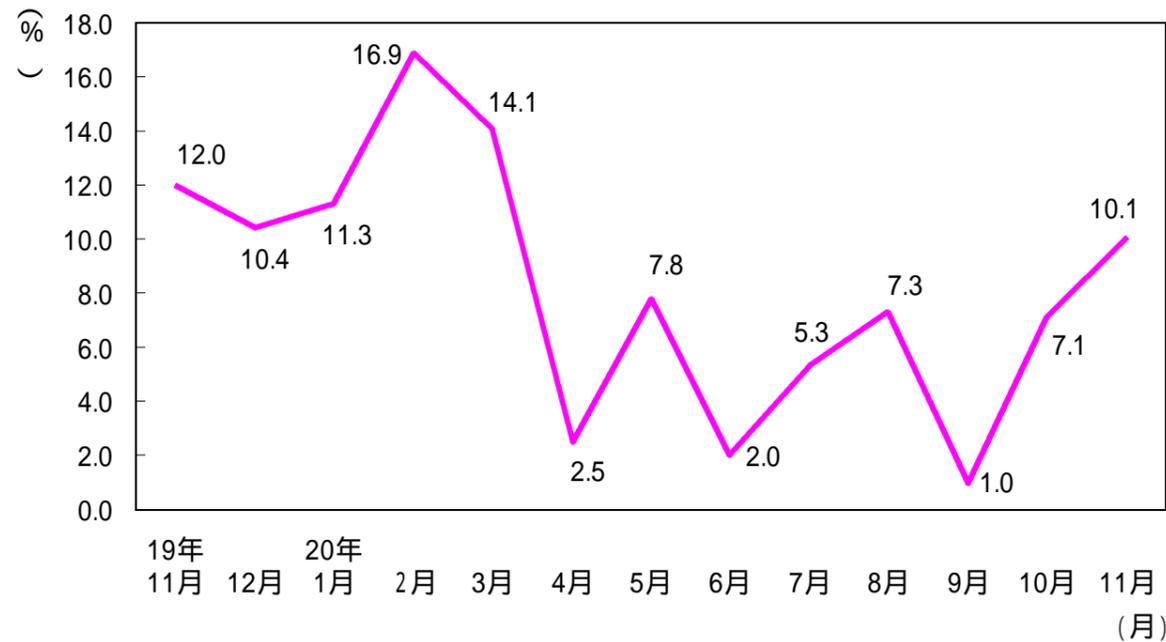
### 4 家電品

#### 薄型テレビやDVDレコーダーの好調が続く

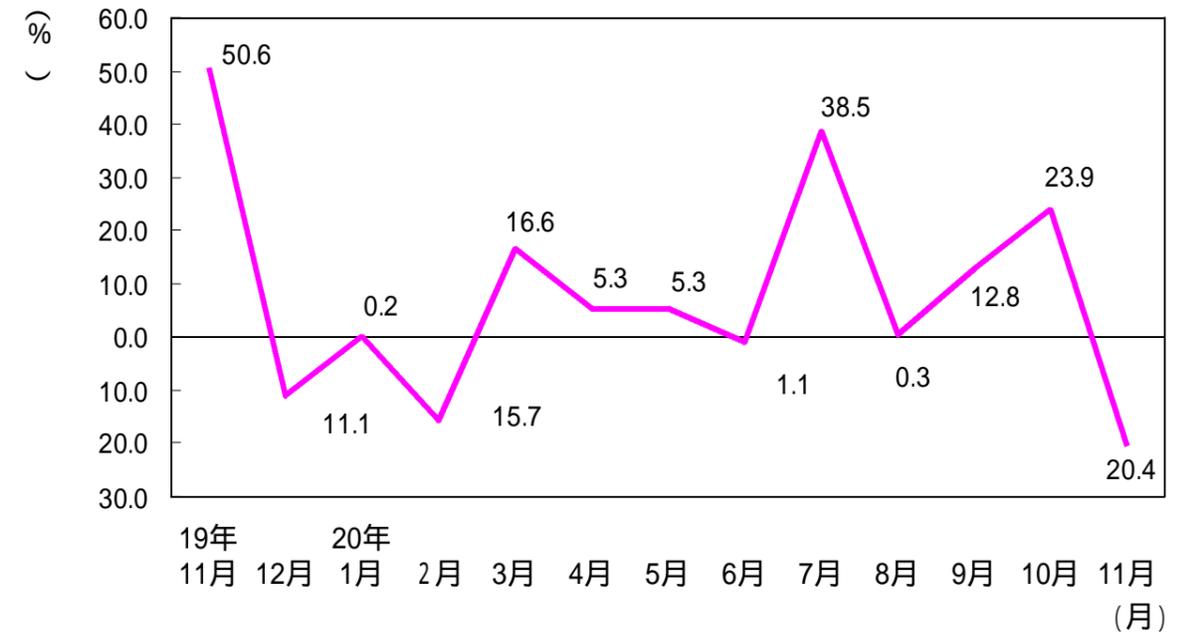
売上高は前年同月比20.4%減。3か月先の業況見通しDIは 20.0のまま変わらない。

11月も暖かい日が多く、暖房機器をはじめとした冬物商品の動きが鈍いままとなっているほか、堅調だった白物家電でも落ち着きが出始めている。しかし先月に引き続き、薄型テレビやDVDプレーヤーなどのデジタル家電が好調に推移しているほか、5万円以下の小型パソコンも好調に販売台数を伸ばしている。総じて見ると、前年同月の反動により大幅減となっているが、ここ3ヵ月の売上高と比べても21.6%増であり、好調な売上となっている。この間、携帯音楽プレーヤーは例年並となっている。

飲食料品売上高前年同月比



家電品売上高前年同月比



## サービス業の動向

### 1 旅館・ホテル

#### 厳しい状況が続く

売上高は前年同月比9.9%減。3か月先の業況見通しDIは、71.4のまま変わらない。

国内景気悪化の影響を受けて巣ごもり現象が見られ、旅行客が減少しているほか、先月まで確保できていたビジネス需要も減少しており、宿泊部門では各社共に低調となっている。さらに婚礼部門でも落ち込んでおり、総じて厳しい状況が続いている。

今後は忘新年会の売上増に期待がかかる。

### 2 その他サービス

#### 運輸業やソフトウェア関連で低調

売上高は前年同月比28.0%減。3か月先の業況見通しDIは10.0から20.0となった。

運輸業では、ガソリン価格の下落により収益性については持ち直してきているものの、自動車部品の貨物量減少や、国内景気の悪化を受けて観光客が減少していることから、前年同月比15.3%減と低調となっている。

ソフトウェア関連でも、先月に引き続き低調に推移している。保険では、火災保険で好調となっているものの、総じて見ると前年の売上を下回っている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



その他サービス売上高前年同月比

